

A5-002

会場 : C409

時間 : 6月4日 14:00-14:15

Preliminary report of petrology and mineralogy of Mid-Ocean Ridge Basalts from the slow-spreading Knipovich Ridge

佐藤 暢[1], K2K 乗船研究者一同 玉木 賢策

Hiroshi Sato[1], K2K onboard scientific team Kensaku Tamaki

[1] 東大・海洋研・海洋底テクトニクス

[1] Ocean Floor Geotec., Ocean Res. Inst., Univ. Tokyo

低速の拡大速度の北極海海嶺のうち、Knipovich 海嶺と Gakkel 海嶺においては、幾つかの試料について研究されているに過ぎない。このような空白を埋めるために、Knipovich200 航海で 9 地点で岩石試料採取が行われた。大きくは北部 Knipovich 海嶺と北部 Knipovich 海嶺中部の Logachev Mountain 域である。採取された岩石はソレイト系列の玄武岩である。同じ Mg # においても、TiO₂ 含有量が異なる場合があり、マントルソースの違いを反映している可能性がある。斑晶鉱物であるかんらん石の組成が Mg#-NiO 含有量ダイアグラム上で幾つかのトレンドを持つこともマントルソースの違いを反映している可能性がある。